

## 和服着用時の動作からみた働態学的研究

Ergologywise Research of Movement when Wearing *Kimono*

松下 千原

Chiharu Matsushita

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード : 和服着用時の動作, しぐさ, 働態学

Key words : Movement when Wearing *Kimono*, Gesture, Ergology

### 1. 研究目的

和服着用時の美しさは、その人が静止している時の着姿だけではない。その人の品のある動作と、その動作がよどみなく流れることによっても、見ている人に美しいと感じさせる。これからの時代は、和服を自分で仕立てることはもとより、着付けてもらうこともますます一般的な時代となっていくことが予想される。これまでは、和服を自分で仕立てられなくても仕立ててくれる和裁士がいて、自分で着装できなくても着付けてくれる着付け師がいた。しかし、動作に関しては教えてくれる人はいても、自分自身で鍛錬することでしか身につけることができない。マナー教室や作法教室に通っていても、修得段階は人により異なり、自然な動きで、かつ人をひきつけるような美しい動作を身につけるには、経験を積むことに多くの時間を割かなければならない。

そこで理想とするのは、和服を着慣れていない人でも着慣れた人のように美しい動作ができるようになることである。そのために、美しい動作はどのようなメカニズムであるのかを考察していく。

基本的な主軸となる動作は、多くの書籍などに掲載されている「マナー」の動作とし、その「マナー動作」をより美しくみせるために「しぐさ」をプラスした形が完成形であると仮説を立てた。この「マナー動作」を主軸とした理由は、修得した動作が、とおり一遍の機械的動作となりやすく、その点が扱いやすいと考えたためである。機械的動作とは、型通りに修得しなければならないという強制的な意味ではない。学ぶ側の手順として、まずはお手本通りに練習するところから始めるという意味で、結果的に型通りの動作になってしまう、ということからこのように考えた。

マナーや作法などは、以前から以下のような思想をもって修得の手立てとしてきた。「作法とは、相手を不快にさせない、そして恥をかかせない思いやりの気持ちなのです。」(『あなたの人生を変える日本のお作法』, 岩下宣子, 自由国民社, 2013, p2)「しぐさ」という言葉でよく耳にする「江戸しぐさ」においても、「互いに気持ちよく共生するために築き上げた、人づき合いの心構えを形にした」(『「江戸しぐさ」完全理解』, 越川禮子, 三五館, 2006, p2)このような例をはじめ、多くの書籍やマナーデザイナーとされる方々がほとんど口を揃えて提唱している。確かに思いやりの気持ちから成り立っている部分は大いにある。しかし、雰囲気や感覚だけで舞踊が上手になることはない、ということと同様に、思いやりの気持ちだけで具体的実践的な所作は修得しにくいのではないかと。

また、書籍における「マナー動作」は完成形のみ掲載、あるいは手順が掲載されていたとしても動作の断片的な切り取りであることが多く、その間の細かな動きは個人の裁量に任されてしまう。例えば、和服専門のマナー書は、その存在自体が珍しいことであるのだが、「美しい歩き方」として掲載しているのは、歩く姿の一断片のみで、その他は言葉だけで補っている。また、足跡で足の運びを解説している部分も、書籍にはよく見かける手法であるが、その足跡通りに歩いたとしても膝や腰の動きにともなわず、ペンギンのようなぎこちない動きになる可能性が十分にある。

これらのことから、同じ「マナー動作」を修得しても、行う人によっては美しくみえないという事態が起こってしまうのではないかと考えた。

この個人の裁量に任されている部分を「しぐさ」とし、法則性を見出すことで、機械的動作である

「マナー動作」を、さらになめらかで美しい動作にすることができると考えた。

そこで、本研究では、実際の動作研究に入る前段階として、研究で使用する言葉の定義を明らかにした。これにより研究をより緻密に進め、動作

の修得率を高める効果も検討した。同時にアンケートも実施し、定義づけ作業の手立てとするとともに、和服動作に関する意識調査を行った（アンケート用紙を図 1 に示した）。

きもの着用時の動作に関するアンケート

平成 29 年 11 月  
大妻女子大学人間文化研究科  
生活文化学専修 1 年 松下千原

このアンケートは、修士論文研究の一環として、20 代女性の現状把握を目的としております。この調査は学術的な目的で行われるもので、お答えいただいた方のお名前や内容には十分に配慮いたします。ご協力をお願いいたします。また、研究の比較対象として、洋服の姿を考えていただく質問も含まれています。

氏名 ( ) 氏名を希望される場合は空欄で結構です。

1. あなたはどの程度マナーがあると思いますか。和服の場合と洋服の場合を考え、5 段階評価で当てる数字に○をしてください。

○和服の場合

ない					ある
1	2	3	4	5	

○洋服の場合

ない					ある
1	2	3	4	5	

2. 仮に、プロの着付け師にきもの着付けを依頼し、出かける予定があるとして、出かけてから帰るまでの間について、どのような不安が湧きますか。どのような状況でも構いません。特になしの場合は空欄で結構です。

3. どの程度、あなたは美しい動作を身に付けたいと思いますか。5 段階評価で当てる数字に○をしてください。

身に付けたくない					身に付けたい
1	2	3	4	5	

**裏に続きます→**

4. きものを着用した上で、美しい動作を身に付けたいとするならば、どのような動作を優先的に学びたいと思いますか。特になしの場合は空欄で結構です。

5. きものを着た美しい人を見かけたことはありますか。その際、なぜ美しいと感じましたか。人柄、髪型、服装、動作、雰囲気、イメージなど、配慮にある範囲で具体的に述べてください。

6. 質問 5. とは反対に、美しくない人を見かけたことはありますか。その際、なぜ美しくないと感じましたか。配慮にある範囲で具体的に述べてください。

7. 和服の場合と洋服の場合における「マナー」と「しぐさ」について、それぞれのイメージと、その具体的な動作例を挙げてください。なお、イメージに関しては、文章・単語、どのような記述でも構いません。

○和服の場合

	イメージ	具体的な動作例
マナー		
しぐさ		

○洋服の場合

	イメージ	具体的な動作例
マナー		
しぐさ		

8. 「美しいしぐさ」とはどのようなことだと考えますか。具体的に述べてください。

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

図 1. 和服着用時の動作に関するアンケート

## 2. 研究実施内容

アンケート調査は、和服が好きな 20 代女性 5 名を対象に、留め置き式によって実施した。

質問 1 では、回答者自身にどの程度マナーがあるかという 5 段階評価において、5 人全員に、洋服よりも和服のマナーに自信の無さが見受けられた。そのため、質問 3 では美しい動作を身に付けたいと回答する傾向があった。しかし動作に自信がないにも関わらず、質問 2 において、着装後にまず心配になることは、着崩れについてであった。仮に着付け師に着装を依頼したとしても、あとに残る心配や不安について尋ねたところ、回答者全員がまず着崩れと回答した。また質問 5 で、他人評価をする項目でも、動作や姿勢より着装の美し

さが最初の判断基準であった。このことから、美しいと感じる条件は、まず着装が整っているかどうか第 1 条件であり、第 2 条件として初めて、動作や姿勢について触れる傾向にあった。

質問 7 では、「マナー」と「しぐさ」の言葉に対するイメージと、そのイメージに対する具体的な動作例についての質問を行った。

これらのアンケート調査結果を、表 1 にまとめて示した。未回答の部分があることを考慮すれば、質問の意図を理解していない可能性もあるが、今回は和服と洋服への回答にさほど違いはないため、和服を例に取り上げる。

表1 回答者別「マナー」と「しぐさ」の言葉に対するイメージと具体的な動作例

回答者	イメージ	具体的な動作例
A	マナー	・季節に合った服装 ・場面に合った服装
	しぐさ	・夏着物、冬着物 ・普段着、おしゃれ着、礼装など
B	マナー	・たもとや裾が乱れない動作（物を取るときたもとを押さえる、歩幅を小さく歩く）
	しぐさ	・階級による着物の着分け ・TPOによって着分ける
C	マナー	・品
	しぐさ	・美しい所作 ・袖を押さえる
D	マナー	・がに股で歩かない ・きちっと着る
	しぐさ	・女性らしさ ・美 ・袖の振る舞い
E	マナー	・歩幅を狭く歩く
	しぐさ	・品がある ・手を伸ばして物を取るとき、反対の手で伸ばした腕の袖口を押さえる仕草
E	マナー	・地位や場面によって身につける着物が決まって
	しぐさ	・裾や袖の扱い ・裾を帯に挟んだりする

表1からまず、回答者別にみると2つのタイプに分けられることがわかる。ひとつは、「マナー」の具体的な動作例において、動作を述べずに着装の着分け方を述べており、「しぐさ」の具体的な動作例は、着装上の和服の扱い方を述べていることである(回答者A・B)。もうひとつは、未回答者も含め、動作については述べられているが、分け方が明確でなく混同しているように見受けられる(回答者C・D・E)。このことから、回答者それぞれの「マナー」と「しぐさ」の使い分けが曖昧であることが判明した。

次に、イメージと具体的な動作例別にみると、イメージに関しては、「マナー」は着装の着分け、「しぐさ」は動作を中心に挙げられている。女性的で品があるという点は共通している。具体的な動作例に関しては、「マナー」の回答に少々違いが見られ、着装の着分け方と歩き方について、「しぐさ」は袖やたもと、裾などの和服の扱い方について触れられている。

「マナー」と「しぐさ」の使い分けについては、アンケートだけではなく書籍でも確認することができる。「人をひきつけるしぐさ」と題名のあるページに「席を立つときのマナー」と書かれており(『大人かわいい女性の話しかた&マナー』, 尾形圭子, 日本文芸社, 2013, p34・35), アンケートと同様、言葉の混同が見られる。また、「マナー」や「しぐさ」、「作法」などを一括して「ふるまい」と述べている(『世界一美しいふるまいとマナー』, 諏内えみ, 高橋書店, 2017, p12~17) 例もあり、「訪問のふるまい」や「外食のふるまい」のように日本語に少々違和感が残る。さらに、「しぐ

さ」として扱われている動作が、他の書籍では「マナー」として扱われている例など、言葉の使い分けには著者によって解釈が異なり、明確な説明がなされていない傾向があった。

質問8では、「美しいしぐさ」とはどのようなことであるかを尋ねた。この質問には、回答者5人のうち3人からの回答が得られた。その回答を以下にまとめる。

- 1) 和服を着るとしぐさが美しくなると言われているが、大きく早く動くことができないためであると考える。
- 2) 小さくゆっくりとした動きが日常的に身につけている人のこと。
- 3) 人に良い印象を与え、美しいと思わせること。
- 4) 相手を不快にさせない。
- 5) しぐさによって、着ている人をより美しくすること。

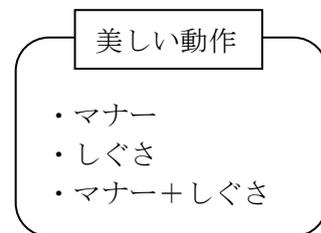
以上を加味した結果、下記を定義として定めた。ただし、本研究にのみ適用される定義であり、場面によっては適用されるものではないということだけは留意する。

「マナー」については、「日常動作のうち、断片的に切り取られ、洋服のマナーと共通することが多く、常識として身につけるべき動作」とする。

「しぐさ」については、「日常動作のうち、独立させて使用できる役割と、断片的な動作同士をつなぐ役割があり、動作全体を何気なくかつ美しくみせ、和服の特徴を考慮した動作」とする。

### 3. まとめと今後の課題

本研究で設定した定義に基づき、アンケートの質問8で得られた回答も加味し、仮説に基づいてまとめると下記のようなになる。



美しい動作にはこの3種類が存在すると考えられる。「マナー」、「しぐさ」は場合によってはそれぞれ独立して使用しても美しい動作になりうるが、「マナー」と「しぐさ」を合わせた動作が最も美

しくなると考えた。

今後は、今回実施したアンケートに改良を加えつつ調査対象者を増やし、考察を深めていく予定である。また同時に、今回得た定義を用いて実際

に動作解析を行い、和服を着慣れていない人でも美しい動作が可能になるための問題点について、研究を行う予定である。